

経営比較分析表（令和4年度決算）

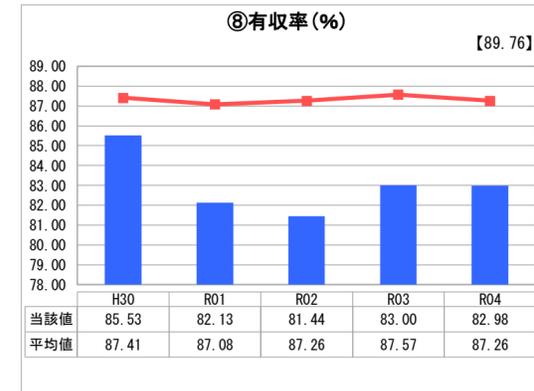
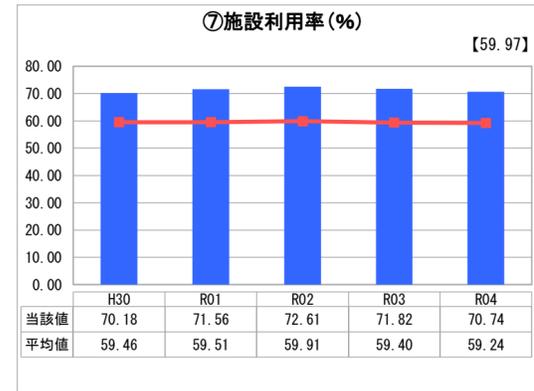
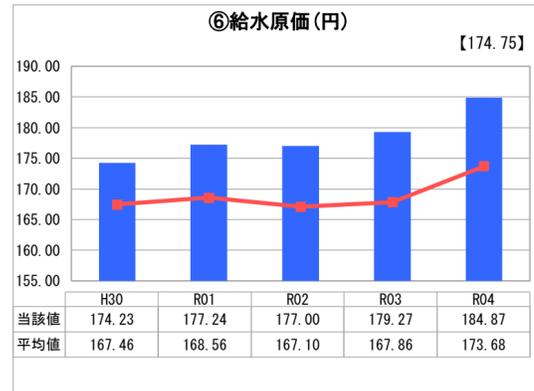
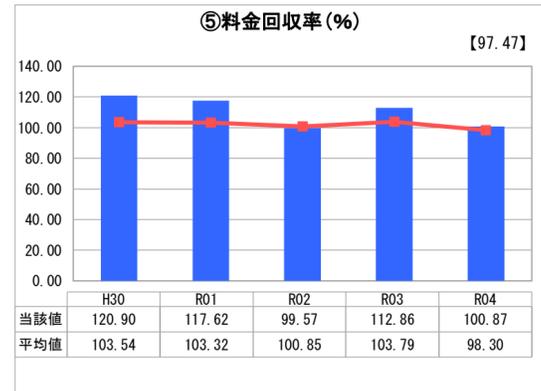
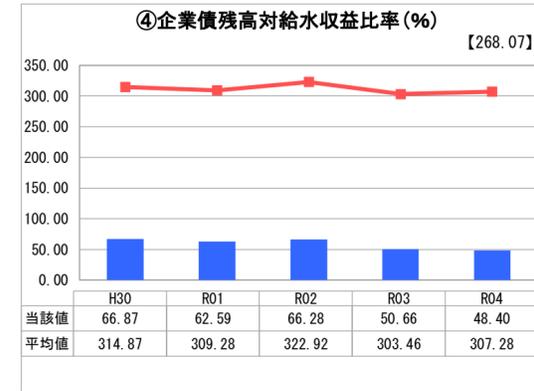
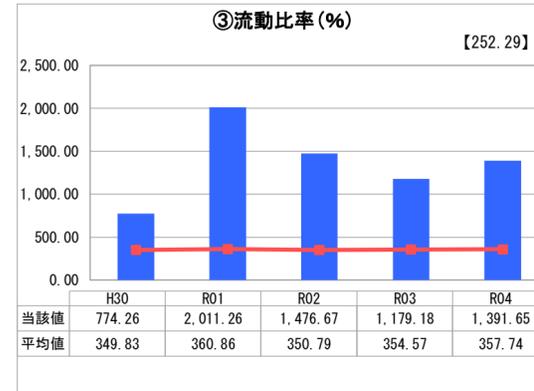
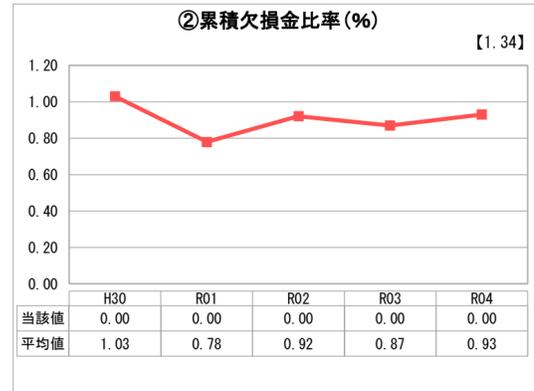
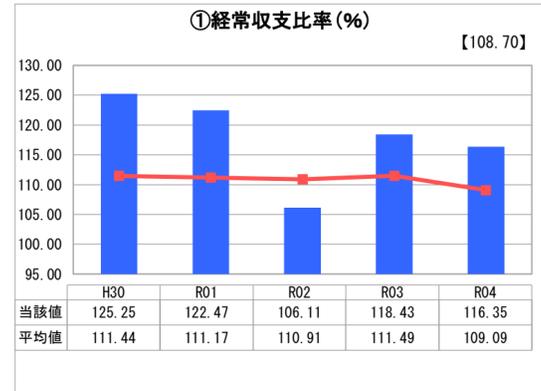
山形県 米沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.81	99.67	3,355	

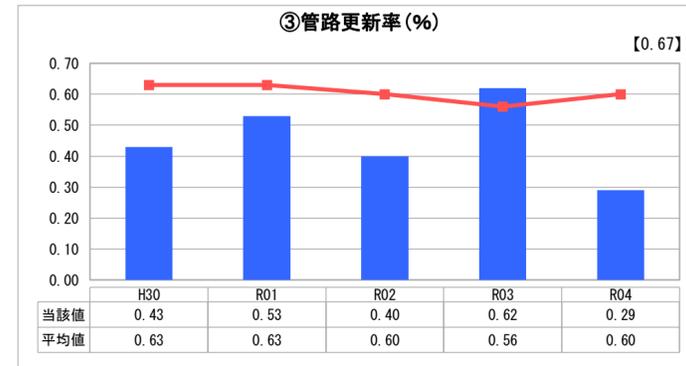
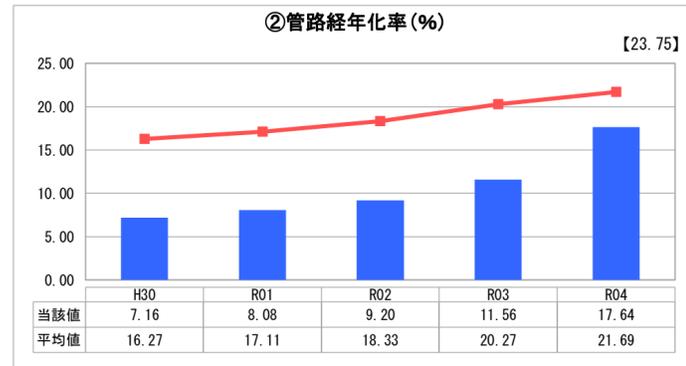
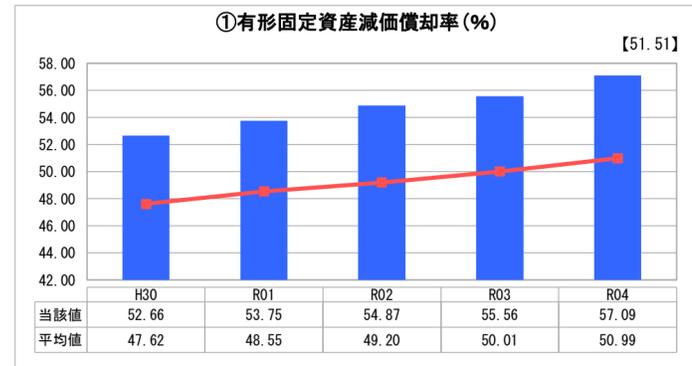
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
77,232	548.51	140.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
76,303	116.45	655.24

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、⑤ 料金回収率は100%を超えており、かつ類似団体と比較しても高い水準にあることから、費用が収益によって賄われている。また、③ 流動比率においても、100%を超えていることから、短期的な債務に対して、現金等の資産で賄われているといえる。しかしながら、①⑤のR2の料金減免による減収を除けば、毎年右肩下がりとなっている。物価高騰の影響があるものの、今後10年以内には、赤字となる見込みであり、経費削減及び適正な料金設定が必要である。

⑥ 給水原価は、有収水量密度が全国平均以下となっているため、全国平均と比較して高い。また、配水管100m当たりの給水人口が少なく、配水に係るコストが高いため、類似団体平均と比較しても、高くなっている。

⑦ 施設利用率は、類似団体平均値を上回っているが、⑧ 有収率が低く、施設の稼働状況が収益に有効に反映されていないといえる。早期に原因を特定するとともに、引き続き計画的な管路更新と定期的な漏水調査を行い、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と比較して高い水準にあり、毎年上昇していることから、老朽化した施設・設備を計画的に更新していく必要がある。

② 管路経年化率は低い水準であり、③ 管路更新率については、R4に大きく減少している。この要因は、重点事業としてR4~R6にかけて配水区受水整備に着手したことによるものである。近い将来、第7次拡張事業期(S56~S60)に急速に整備された管路が一斉に老朽化し、管路経年化率が大幅に上昇することが予想されるため、アセットマネジメントの活用等により、計画的かつ効率的な施設・設備の更新を行っていく必要がある。

全体総括

経常収支比率、流動比率、料金回収率等が、類似団体と比較して高いことから、現状では経営の健全性は保たれているといえる。

しかし今後は、人口減少等による給水収益の減少が見込まれるため、資産の適切な維持管理を行うとともに、施設の統廃合や、適正規模での更新、周辺団体との広域連携等、経費の削減に努め、また適正な料金水準の設定が必要である。更には、有収率向上のため、管路の更新及び耐震化や漏水調査を計画的・積極的に行っていく。